

宇和島圏域活性化協が始動

目指せ一大観光地

魅力ある観光地づくりを進めようと、宇和島市と南北宇和郡の三市町や企業でつくる「宇和島圏域活性化協議会」（会長・石橋寛久市長）が十月、本格的に始動した。三カ年計画で初年度は既存の観光資源を見直し、関連業者の意識改革も促す。てこ入れによる地域再生に期待がかかる。

鬼が城山系や宇和海 見直しなどの提案事業の恵まれた自然、山海が七月、国の本年度、地の幸による食など圏域方の元気再生事業」には良質な観光資源が選ばれ、約三千二百六十万円の支援を受ける観光客は二〇〇七年度に約七十一万人（県推計）と、近年最高だった。これを受け協議会は本年度、観光施設・資

コンサル社と提携 資源見直し人材育成

れた〇四年度に比べ、十二万人落ち込んだ。同協議会はこの五月に発足。特産品を使った新製品開発や資源

て行う。協議会をサポートする県南予地方局の八十島一幸地域政策課長補佐西谷は「客観的な目で観光資源の掘り起こしをお願いしたい」と期待する。大都市圏からアクセ

インサイドリポート



小高専務(奥)から売れる観光地づくりを学ぶリーダー研修会の参加者たち。23日、宇和島市

をメイン事業として実施。委託する名古屋市の観光コンサルティン グ会社「観光販売システムズ」が主体となっ

スが悪い圏域をどうやって「売れる」観光地にするか。同社の小高直弘専務は「観光客が何を望むのかを知

者や行政関係者の意識改革につなげていく。二十三日には地域観光のリーダーを養成する第一回研修会が宇和島市であり、四市町の担当者や町づくりグループ代表ら十一人が小高専務のアドバイスに聞き入った。受講した坂本浩・松野町産業振興課長補佐西谷は「資源に恵まれた南予にあぐらをかいていたことに気付かされた」と話していた。

小高専務は「宇和島圏域と似た所は全国に多く、いかに差別化するが今後の鍵」と語る。国のでこ入れ策である地方の元気再生事業に選ばれるのは最大三年。事業の成否は、地元がどこまで本気でやり抜くかに掛かっている。

(宇和島支社・野依伸彦)

火災避難訓練 想定6弱震度 1500人参加



松した大会論



ね



行政や体が一休浜市のが二十五新田町一三橋園贈られ